

## 第3号議案

### 平成26年度事業計画書

自：平成26年4月1日 至：平成27年3月31日

#### 1. 全般

- (1) 本学会の運営の基本方針として次の項目に示す活動を推進する。
  - ① 世界をリードする実装技術のけん引役としての活動
  - ② 幅広い技術領域をカバーしていることを活かし展開
  - ③ 将来を担う若い実装技術者の育成と魅力ある活動の場の提供
- (2) 学会活動の活性化を図るために、会員増強活動を引き続き展開するとともに、会員主体の学会活動をより推進するために、学会運営の公平性と透明性の強化に努める。従来からの活動に加え、新しいアイデア、新しい概念、新しい考え方を注入して、イノベーションを起こすような活動を推進する。
- (3) 大会事業については、春季講演大会、秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム、国際会議ICEP、ワークショップを実施する。これらのイベントへの参加者および発表者の増加を図るため、新分野のセッション企画などを強化するとともに、収支改善のため運営の合理化を進める。さらに、各行事の将来の方向性、運営の充実を図るための仕組みづくりを考えていく。
- (4) 展示会事業については、JPCA Showと同時開催するマイクロエレクトロニクスショーの展示企画として、最先端実装技術シンポジウム、アカデミックプラザ、及び、eX-techを実施する。また、前年に続き、セミコン・ジャパンにおいて学会活動紹介展示等を行う。
- (5) 技術調査事業については、学会の基盤活動である技術委員会および研究会の活動を強化・活性化するため、新規テーマや横串的な研究会活動の立上げを促進する。技術委員会および研究会の運営について、予算計画、支出内容の見直しを含め自立化かつ健全化を推進する。
- (6) 教育事業については、将来を担う実装技術者、若手技術者を育成するためにきわめて重要であり、学会の果たすべき重要な機能である。その点でニーズに対応した企画とするため、従来の講座以外に若手会員、新規会員、JPCAを含む賛助会員のニーズを掴み、新たな取り組みや充実した活動を目指していく。

それにより会員、賛助会員の技術者の能力の向上、ものづくり基盤技術の強化に貢献する。
- (7) 会誌発行事業は、学会活動のアウトプットとして重要であり、例年通り学会誌を7回、英文論文誌を1回発行する。編集作業の効率化のため、学会誌への投稿は、投稿審査システム(Editorial Manager®)の利用を拡大していく。英文論文誌は、海外への情報発信を強化継続するため、電子閲覧での一般公開を継続する。
- (8) 国際事業については、国際会議ICEPを機軸に、IEEE CPMT Society Japan Chapter, IMAPSとの連携を継続する。ICEP開催に関して、ICEP Steering Committee を国際事業委員会の組織下で開催し、また、他の日本で開催される国際学会との連携も含めて、新たな仕組みを構築する。また、今年は、韓国で、第3回目のIAAC(IMAPS All Asia Conference)が開催されるので、全面的に協力し、台湾に次いで、韓国とも強力な関係を築き上げる。
- (9) 支部事業については、支部の主体性を尊重しつつ、活動を推進していく。関西支部は前年と同様に、若手研究者セミナー、技術講演会、関西ワークショップ、「ぷらっと関西」を開催する。九州支部は自主イベントの開催に向けた準備を進める。
- (10) 表彰事業活動については、例年通り、学会活動の活性化を目的に、学会活動に功績のあった方および学術的・技術的に貢献があった方に学会各賞を贈呈する。

(11) JPCA と JIEP は車の両輪のごとく、極めて重要なパートナーである。お互いの強みを生かし、現在の我が国の製造業の苦境を乗り切するための戦略を共有する取組を 2014 年度開始する。

そのため市場ニーズの把握のための活動、そのニーズに対応した技術シーズに対する目標設定や新規技術領域の規格策定などについて定期的に意見交換を行い、情報の共有、活動の活性化を図るため、定期的に JPCA との戦略会議を開催する。

## 2. 学会運営体制

### (1) 財務体質の安定化

永続的に学会が運営できる財務基盤の確立を目指し、収益改善、費用見直しにより一層努力をする。

### (2) 会員数の増強活動

会員の新しいニーズに対応する新しいテーマの研究会の立上げを支援するとともに、ミッションフェロー活動から提案される諸活動の具体化を支援する。これらの活動を含め研究会活動の広報を強化するとともに、研究会に参加しやすい環境づくりを行う。

## 3. 大会事業活動（定款第 4 条第 1 号関係）

(1) 「国際会議 ICEP 2014」を IEEE CPMT Society Japan Chapter および IMAPS の共催のもと、2014. 4. 23～25 に富山国際会議場にて開催する。海外への情報発信、国際交流を通じて、当学会の国際的プレゼンス向上を図る。

(2) 「第 24 回秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム」を 2014. 9. 4～5 に大阪大学吹田キャンパスで開催する。実装分野の企業・大学・公共研究機関の最新の研究・開発の成果発表と情報交換の場を提供する。活性化の施策として“ものづくりセッション”、大学研究室紹介コーナーを企画するとともに、収支改善に努める。

(3) 2014 ワークショップを 2014. 10. 23～24 にラフォーレ修善寺で開催する。注目されている実装技術、関連技術について、発表者と参加者と双方向のディスカッションにより理解を深めるイベントとして提供する。活性化を図り参加者を増やすとともに収支改善に努める。

(4) 「第 29 回春季講演大会」を 2015. 3. 11～13 に東京電機大学 東京千住キャンパスで開催する。実装分野の企業・大学・公共研究機関の最新技術開発の発表と情報交換の場を提供するとともに、ものづくり技術の紹介により企業からの参加の機会を増やすとともに、チュートリアル講義により若手研究者の参加者増も図り、活性化を図るとともに収益増に努める。

## 4. 展示会事業活動（定款第 4 条第 1 号関係）

(1) JPCA Show と同時開催のマイクロエレクトロニクスショー(2014. 6. 4～6 東京ビッグサイト)の展示企画として、「最先端実装技術シンポジウム」、「アカデミックプラザ」及び「eX-tech」を実施し、業界関係者への情報発信の強化、産学共同の情報交流の場の提供を行うとともに、JPCA Show 等同時開催の展示会の活性化と集客にも貢献する。

(2) 「セミコン・ジャパン 2014」(2014. 12. 3～5 東京ビッグサイト)に出展し、当学会活動紹介を通じて、半導体関係者へ情報発信と会員拡大を図る。

## 5. 技術調査事業活動（定款第 4 条第 2 号関係）

### (1) 技術委員会の活動

13の技術委員会を組織し、実装技術分野の技術動向を調査し、それらの成果をまとめて、学会誌特集号に掲載する。また、大会事業や展示会事業に委員を派遣し、各イベントの企画運営を支援する。

(2) 研究会の活動

期初の22研究会に加えて新規分野の研究会を創設し、エレクトロニクス実装技術領域の変化に対応する。基礎要素から応用までの幅広い実装関連テーマについて調査活動を行い、委員相互の情報交換や、必要に応じて試料作製から測定・評価を行い情報が共有できる場を提供する。

技術委員会の機能と傘下の研究会の機能を統合して一体的運営と社会や業界の変化に対応できるスリムな組織へ変革する。

(3) 技術調査事業活動成果の普及

技術委員会および研究会の活動で得られた成果については、公開研究会や学会誌などで広く公開する。

**6. 教育事業活動（定款第4条第3号関係）**

(1) 教育講座

実装分野の研究開発者の育成に寄与するため「PWB製造初級講座」（2014.6）と「実装技術総合講座」（2014.10）を継続実施する。必要があれば、内容、資料等のアップデートも検討する。

(2) 教育セミナー

例年どおり、注目されている実装技術をテーマを平易に解説する「実装セミナー」を2回開催する。

(3) 実習付き教育講座

実習付き教育講座については、演習時間を充実確保するなどカリキュラムを工夫して、継続実施する。また、テーマについても、「伝熱解析」に限らず幅広く展開できる可能性もあるので、ニーズに応じて柔軟に検討する。

(4) JPCA等賛助会員との共同企画

JPCAと協力してものづくり基盤技術を担う中小企業に向けた教育的プログラムへのニーズを掴み、JIEP会員および賛助会員企業を含む関連産業界技術者の能力向上に寄与できる企画を推進する。

**7. 会誌発行事業活動（定款第4条第4号関係）**

(1) エレクトロニクス実装学会誌の発行

例年通り、機関誌「エレクトロニクス実装学会誌」を7回発行する。研究開発活動の成果として研究論文、総合論文、速報論文、解説等を掲載し、実装技術に関する最新情報を会員に提供する。また、理事会や各事業委員会の活動状況についても広報する。オンライン投稿審査システム(Editorial Manager®)については、操作性を改善しながら、投稿論文に加え特集記事等にも利用を拡大していく。

(2) 英文論文誌の発行

本学会の国際的な認知とプレゼンスの向上を図るため、引き続き、英文論文誌(Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging Vol.7)を発行する。前年に引き続き、費用圧縮のため、電子閲覧を基本とする。学会英文ホームページ及びJ-STAGE(科学技術振興機構の総合電子ジャーナルプラットフォーム)から一般閲覧できるようにして、海外への情報発信を活性化する。

(3) 韓国語翻訳転載

学会誌の研究論文、解説論文の一部を韓国語の雑誌への翻訳・転載を継続する。海外への情報発信と技術普及を促進する。

(4) 収支改善

会誌発行事業の収支改善に向け、広告収入の増強、経費削減（英文チェック費用、投稿原稿料、依頼原稿謝金などの見直し）を検討する。

8. 国際事業活動（定款第4条第5号関係）

(1) 国際会議 ICEP2015に係る IEEE CPMT Society Japan Chapter、IMAPS との連携

国際会議 ICEP2014 に続き、ICEP2015 に係る IEEE CPMT Society Japan Chapter、IMAPS との連携のため、前回と同様、MOU 締結の手続きを進め、投稿論文の IEEE Xplore 掲載の準備を進める。

(2) IAAC(IMAPS All Asia Conference) 2014 韓国への協力

2014年に、韓国にて、第3回目の IAAC(IMAPS All Asia Conference)が開催される。全面的に協力し、台湾に次いで、韓国とも強力な関係を築き上げ、IAAC 2015 日本開催につなげる。

(3) 国際事業新体制

ICEP 開催に関して、ICEP Steering Committee を国際事業委員会の組織下で開催し、3年先を見据えた体制を構築する。また、他の日本で開催される国際学会との連携も含めて、新たな仕組を構築する。

9. 支部事業活動（定款第4条第6号関係）

(1) 関西支部の活動計画

若手研究会 세미나（2014年11月と2015年2月に開催予定）、技術講演会（2015年1月開催予定）、関西ワークショップ（2014.7.18～19）、および「ぷらっと関西」（2014年11月）のイベントを、引き続き実施する。関西ワークショップは前回同様、経験豊かな先輩を囲んでのナイトセッション等を企画し、参加者の増員を図る。

(2) 九州支部の活動計画

九州支部独自イベントとして、技術講演会や若手セミナー等、産学関係者の交流の場を企画検討する。

(3) 東北・北海道地区の活動計画

東北・北海道地区の会員数増強の推進体制を構築して、地区の活動基盤を固めていく。

10. 表彰事業活動（定款第4条第6号関係）

学会活動の活性化と研究開発者のモチベーションの向上のため、例年通り、エレクトロニクス実装に関する学術の発展および学会活動に対して功績のあった方に学会賞、功績賞、技術賞、論文賞、功労賞、マイスター賞を贈呈する。大会事業の各種イベント（春季講演大会、秋季大会 MES、国際会議 ICEP）についても、例年通り優秀発表者を表彰する。